

子どもの命を 守る 防災講座

○「大気の状態が不安定」に注意

積乱雲がいつどこで発生するかわからない状態。温暖化が進み、積乱雲が発生しやすくなっている。大気の状態が不安定な時には情報を収集し、外出を控えたり、出かける場合は避難場所を意識するなど、ゆるやかな緊張感を持って行動する。

💬情報いろいろ💬

- ・キキクル（気象庁）

川の危険度が色分けされているので、実際に川を見に行くことなく状況がわかる。

自身のいる場所の色を見るだけでなく、上流の状況に注意をむける。情報の読み取り方で行動の早さが変わる。

- ・川の防災情報（国交省）
- ・神戸市ホームページ

都賀川の増水の様子を YouTube で見る事ができる。普段は安全な川が、豪雨時には2分で1メートルのペースで増水する。増水の早さを理解していないと逃げ遅れてしまう。

子どもに教えてほしいこと

子どもを守るために…

- ・親が直接守ってあげる
- ・親がいない場面でも自分の身を守れるように

…どちらも必要

○雷 ・車や建物の中に避難！

木の下や軒下での雨やどりは危険（側撃雷）。

車に避難した時は車のフレームと体が触れないよう注意する。

- ・シャワーや流水は使用しない

水を通して感電の危険あり。流水でなければ（湯舟など）大丈夫。

- ・固定電話での通話も危険（子機はOK）

- ・落雷を受けたら一刻も早く人工呼吸と心肺蘇生

幼児の手当は成人と異なる。

救命救急講習の上級に幼児のカリキュラムがある。





△建物などが何もない場所では
「雷しやがみ」

- ①頭をできるだけ低くしてしゃがむ
- ②両手で耳をふさぐ
- ③両足のかかと同士を合わせる
- ④つま先で立つ

○地震 地震は自然現象の1つ。地震によって山が高くなり、土砂崩れや洪水によって肥沃な大地が
うまれるという一面もある。自然の恵みと表裏一体であり、当然起こるものだと考える（現に
感じない程度の地震（無感地震）は常に起きている）。怖がらずに、常に備えることが大切。

- ・家の耐震性の確認（自治体によっては耐震化補助制度あり）
- ・家具の固定・家の地盤の確認（地盤調査サービス）・とっさに外に出る時の導線

…アンテナを高くして情報をキャッチする

◇「揺れたらテーブルの下」「トイレに避難すれば安全」などの「常識」をうのみにせず、
なぜそういわれているのか？本当にそうなのか？自分で考えなければならない。

◇子どもに対しても、「常識」をそのまま教えるのではなく、一緒に考える。
「教える」のではなく「ともに学ぶ」。親も子も、自分自身で納得することが大切。

親子で防災センターに
行ってみよう！

家族のレジャー時や外出時など
「ここで地震がおきたら？」を
親子で考えてみよう

質疑応答

Q：1歳と3歳の子がいる。家に大人が1人の時に災害があったら、2人と荷物を持って避難すること
になるが、どのように避難すればいいのか。1人は歩かせるしかないか。また、そのようなときに何
を持ちだしたらよいか

A：一番いいのは、避難しなくてもよい家に住む事。むやみに避難しない方がよい場合もある。
ただ、火災など、とにかく避難しなければならない状況の場合には、まずは子どもと自分の命を守る
事が先決。荷物は後からでよい。我が家では防災ベストを1人1つ用意している。

Q：雷がなっているとき、子どもには「早く帰ってこい」と促してしまいそうだが、雷がおさまるまで
「雷しやがみ」をさせていた方がよいか。

A：とにかく近くの建物に入るようにする。近くに何もなければ、姿勢を低くしながらも建物のある方
に移動する。

Q：（事後アンケートより）外出時に必ず持ち歩いている物はあるか

A：携帯トイレ/止血パッド/ヘッドライト/笛/モバイルバッテリー/黒いポリ袋/おやつ/ゼリー飲料/
ウェットティッシュ